

第1学年 音楽科学習指導案

平成17年9月27日(火) 第2校時

第1学年B級(男子21名, 女子20名)

指導者

畑田 麻由美



1 単元 情景と音楽

2 目標

- (1) 情景を想像して鑑賞する態度を養う。
- (2) 詩の内容を理解し、登場人物の心情を、朗読により工夫して表現できるようにする。
- (3) 登場人物に合わせた歌い方の相違や、伴奏の変化を感じ取る能力を育成する。
- (4) 歌と伴奏が一体となった表現の効果を味わいながら鑑賞できるようにする。

3 指導観

- 本単元は、詩と音楽とのかかわりを学ぶとともに、歌詞を朗読する活動を通して歌詞の内容を工夫し表現することから、作曲者が情景を音楽でどのように表現しているか、感じ取らせることをねらいとしている。「魔王」の詩は、「語り手」「父親」「子」「魔王」という4人の登場人物の対話形式となっているため情景を想像しやすく、詩とかかわらせた作曲者の音楽表現の工夫を感じ取れる曲である。学習指導要領の第1学年の鑑賞の内容は、「声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴くこと」や、「速度や強弱の働き及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴くこと」が揚げられている。ここでは、鑑賞の活動における基礎的能力を育てる観点から、楽曲の雰囲気や曲想とかかわらせて聴くことをねらいとしている。鑑賞の基礎的な能力を育てるためには、まず音楽の構成要素と楽曲のもつ雰囲気や曲想とのかかわりを意識して聴き取らせたり、聴き分けさせたりすることが必要である。そのためには、特徴ある構成要素とイメージをかかわらせて聴くことができることの容易な情景描写や物語風の楽曲を取り上げたり、音色やリズムとその変化が明確な楽曲や演奏を用いたりして、音楽の表現と構成要素が密接に結びついていることに気付かせることが考えられる。鑑賞の活動を通して、音楽の表現と音色やリズムのような構成要素が密接に雰囲気や曲想と結びついていることに気付かせることから、情景と音楽のかかわりを学ばせたいと考え、本単元を設定した。
- 本学級の生徒は、前回の鑑賞の授業でヴィヴァルディ作曲の「春」を学習しており、情景と音楽の関わりについての鑑賞を行うのは今回で2回目である。前回の鑑賞の学習では、音楽が表している情景をイメージしながら聴くことができていた生徒が全体の4分の3程度おり、音楽を構成する諸要素と楽曲の雰囲気や曲想とをかかわらせて聴くことができていた生徒は全体の4分の1程度いた。音楽から情景をイメージして聴くことに対しおもしろさを感じている生徒もあり、情景と音楽のかかわりについて興味・関心を持ちつつあるところである。
- そこで本単元では、情景の感じ方や表現の仕方を自由に引き出せる指導を行いたい。まず、詩の内容を理解させるため、どのように朗読を工夫すると登場人物の心情を表現できるかを考えさせたい。そして、そこからシューベルトは情景を音楽で表現するために構成要素の働きをどのように工夫したか考えようとする意欲に導きたい。また、歌詞の内容を理解することで、歌手の歌い分けの効果やピアノの伴奏形の特徴・効果について気付かせ、それらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取らせたい。このように、歌詞の表す情景をそれぞれの生徒が想像しやすく、作曲者の音楽表現の工夫を読み取りやすい歌曲「魔王」(ゲーテ作詞 シューベルト作曲)の鑑賞を通して、情景と音楽とのかかわりを理解し、歌詞の内容と歌い方と伴奏が一体となった劇的表現の効果を感じ取って聴く能力を養いたい。

4 指導計画

情景と音楽のかかわり———2時間

(1)歌詞の内容理解と、作曲者の音楽表現の工夫について———1時間(本時)

(2)歌詞の内容と、歌い方、伴奏のかかわりについて———1時間

5 本時の学習指導

(1)目標

○シューベルトが、歌詞の内容を音楽でどのように表現したか感じ取ることができる。

(2)資料及び準備

教科書、CD、再生機器、ホワイトボード、ワークシート、歌詞を書いた模造紙、画用紙

(3)指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	時間
1 歌曲「魔王」(ドイツ語)のCDを聴く。 ○教科書(P10,11)を開き、シューベルトの歌曲「魔王」であることを知る。	○情景を想像しながら聴くように助言する。 ○教科書を開かせ、曲名、作曲者、作詞者を紹介する。	4分
2 本時の学習内容と目標を確認する。 シューベルトは、詩の内容を音楽でどのように表現したか考えよう。	○本時の学習内容を明確にすることによって、生徒が授業に見通しを持って取り組めるようにする。	6分
3 原詩の訳を読み、情景を想像する。 ○登場人物 ・語り手 ・子 ・父 ・魔王 ○背景	○4人の登場人物の対話形式で歌詞が成り立っていることを説明する。	8分
4 朗読をする。	○出席番号順に4人1組のグループに分け、役割分担をし、朗読する場を設定する。 ○情景を想像させやすくするために、実際に声に出して表現する場を設ける。 ○シューベルトの音楽表現の工夫に気付きやすくするために、朗読表現を工夫する場を設ける。	13分
○グループごとに、歌詞の内容にふさわしい表現を考え朗読する。 ○歌詞の内容にふさわしい表現をするために朗読で工夫した点をワークシートに記入する。 ○登場人物の心情を表現するために考えた工夫点を発表する。	○グループごとに登場人物や人物の心情にふさわしい表現を考える場を設定する。 ○グループごとに工夫点をまとめることができるようにするため、ワークシートを用いる。 ○次の活動をしやすくするために、発表して全体でグループごとの工夫した点を確認し、登場人物ごとに板書にまとめる。	20分

5 歌曲「魔王」（日本語訳）の CD を聴く。 ○登場人物の特徴や心情を表現するためにシューベルトが工夫した点について、気付いたところをグループごとに話し合う。 ○話し合いにより出てきた意見を発表する。	○グループで朗読表現を工夫した部分について、シューベルトは音楽表現をどのように工夫しているのか気付かせるため、譜面を見ながら聴くことを助言する。 ○朗読活動の際に出てきた工夫点と照らし合わせるようにするため、音楽における工夫点を全体で確認し、登場人物ごとに板書にまとめる。 ○登場人物の心情に伴った音の変化を、必要に応じ板書と譜面とピアノで確認する場を設ける。 ○生徒たちが気付かなかった工夫点を助言する。	25 分 30 分 37 分
6 本時のまとめをする。	○本時の目標を再度確認し、達成できたか振り返る場を設定する。	47 分
7 次時予告を聞く。	○次時は、詩の情景と歌い方の相違、伴奏の効果に着目し、シューベルトの表現方法についての学習をすることを伝える。	48 分 50 分

6 板書計画

めあて シューベルトは、詩の内容を音楽でどのように表現したか考えよう。

朗読の工夫点

- ・ 語るように
- ・ あまり感情を込めずに
- ・ 落ち着いて
- ・ 怖がっている
- ・ だんだん必死になっていく
- ・ やさしく誘うように
- ・ 最後は怖く

語り手

父

子

魔王

シューベルトの音楽表現

- ・ 最後はだんだん早くなる
- ・ 語るような音楽
- ・ 低い音域の音楽
- ・ 高い音域の音楽
- ・ だんだん音が高くなっていく
- ・ 明るい音楽
- ・ 最後急に暗くなる

歌詞を書いた模造紙